

檀信徒各位

ぎょきほうよう
御忌法要のご案内

聖名 新年明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、例年1月の「御忌法要」を迎えることになりました。

日本のお念仏の元祖、浄土宗開祖（法然上人）の祥月命日にあたる1月25日の法要です。

浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記の通り勤めます。ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。 合 掌

平成24年1月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

記

※期 日 平成24年1月25日（水）

※時 間 午後1時より 法 要、御 回 向
午後2時より 法 話

※布教師 山上 光俊師

※ご回向料

普通回向 1 霊 1,000 円以上

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

平成二十四年度年回繰出し表

一周忌

平成二十三年

中島フサオ 殿
 江崎淳 殿
 中原文男 殿
 中島満二 殿
 熊丸泰二 殿
 多賀満子 殿
 中野元子 殿
 澤野久子 殿
 北島スミ子 殿
 河原シヅエ 殿
 平田睦夫 殿
 池田寿利 殿
 木下哲士 殿
 井上弘昭 殿
 尾形亨 殿
 鶴形甫 殿
 藤村トミヨ 殿
 浅野重幸 殿
 竹島俊子 殿
 成田トラノ 殿
 中尾久美子 殿
 野口シゲ子 殿
 中原美子 殿

篠原文子 殿
 森山廣子 殿
 北村国雄 殿
 井手清幸 殿
 加納美恵子 殿
 坂井道輔 殿
 近藤政子 殿
 多賀義高 殿
 中村シヅエ 殿
 山口みどり 殿
 中園志津子 殿
 笠原幹雄 殿
 高田久枝 殿
 青木勝太郎 殿
 青木勝典 殿
 熊崎弓子 殿
 堀辺博 殿
 山下正枝 殿
 徳永記久男 殿
 太田満子 殿
 中島章 殿
 井嶋好香 殿
 水田陽子 殿
 真鍋智恵子 殿
 足立辰男 殿
 城後スズ子 殿
 柴田吉郎 殿

二回忌

平成二十二年

木下ミツ子 殿
 秋山和美 殿
 鹿毛ヨシ 殿
 下川清 殿
 平田達子 殿
 熊本アキヲ 殿
 木下昭 殿
 川原次郎 殿
 安増節子 殿
 吉武英吉 殿
 熊丸菊枝 殿
 中原トシエ 殿
 井口カツエ 殿
 川村輝男 殿
 佐藤千代 殿
 山村テイ子 殿
 池尻清美 殿
 弥永正博 殿
 笠井雅彦 殿
 田中守 殿
 塚本ミサキ 殿
 中牟田芳子 殿
 坂本逸夫 殿

安部龍史 殿
 原口キマ 殿
 田島弘子 殿
 三根芳太郎 殿
 田中照美 殿
 志岐サヨ子 殿
 熊丸都 殿
 熊丸和子 殿
 熊丸卓武 殿
 島岡藤雄 殿
 稲田輝男 殿
 山口哲男 殿
 内田圭太 殿
 石橋齋 殿
 川原ちえこ 殿
 青木ミチ子 殿
 橋口純子 殿
 古賀ヌイ子 殿
 中原茂行 殿
 弥永守彦 殿
 森アツエ 殿
 北村ミツ子 殿
 弥永富子 殿
 下川フミエ 殿
 野村武雄 殿
 國武志ようじ 殿
 田島努 殿
 池尻秀雄 殿
 中島マスエ 殿
 徳臣惟行 殿

七回忌

平成十八年

吉原昭二 殿
 山下忠左衛 殿
 田中カズエ 殿
 富澤守 殿
 木本伸男 殿
 緒方司郎 殿
 広木京子 殿
 齋田勇 殿
 熊丸明葉 殿
 立石ツルミ 殿
 田中房三 殿
 吉田弘 殿
 多賀幸子 殿
 角福恵 殿
 久富大樹 殿
 中園修二 殿
 松石久仁子 殿
 川原賢二郎 殿
 久富陽一 殿
 島生敬子 殿
 三笠正光 殿
 藤井ナミエ 殿
 弥永繁 殿
 澤房雄 殿
 下川和則 殿
 深町ヤエ子 殿

十三回忌

平成十二年

笠井昭治 殿
 藤頭清次 殿
 龍頭ケイ子 殿
 大田チツ子 殿
 田中万作子 殿
 木下カメノ 殿
 杉田勲夫 殿
 高田勲夫 殿
 武田麓 殿
 西尾誠 殿
 坂井文 殿
 佐藤東喜彦 殿
 諸藤サワノ 殿
 島生忠夫 殿
 中尾フサエ 殿
 浅井尚門 殿
 重松フミエ 殿
 武田英一 殿
 古賀肇 殿
 皆孝之 殿
 山崎安宏 殿
 高田正俊 殿
 笠原孝子 殿
 木下隆人 殿
 山崎忠芳 殿
 井上正幸 殿

平成24年1月1日

こうりん

第70号

弓削良一殿	大石磐根殿	野村泰雄殿	江頭ノブ子殿	内田律夫殿	笠イサヲ殿	牛島猛殿	西村実殿	大塚清子殿	川村佳子殿	井手ヒトエ殿	平木三郎殿	笠芳男殿	橋元光枝殿	木下進殿	笠ノブ子殿	中野よし殿	原口正敏殿	宮崎アサエ殿	笠政雄殿	古賀征男殿	鞍打定子殿	中原和子殿	菅知美殿	井上ヤエ子殿	中野英典殿	池田義雄殿	篠原盛義殿	中村トミ子殿	吉田秀子殿
-------	-------	-------	--------	-------	-------	------	------	-------	-------	--------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	--------	------	-------	-------	-------	------	--------	-------	-------	-------	--------	-------

井手定殿	大塚敏子殿	山田花子殿	秋山龍也殿	近藤秀雄殿	成富モモエ殿	日比生太助殿	笠勇殿	町野千賀恵殿	藤野ヨシエ殿	池田はつね殿	川原竹子殿	牛島一代殿	笠光子殿	山下健一殿	緒方光男殿	平成八年 十七回忌						弓削不二男殿	平田スミエ殿	野村信雄殿	緒方チヨ子殿	青木トモエ殿	平木五男殿	野田二喜恵殿	倉重祥弘殿
------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	-----	--------	--------	--------	-------	-------	------	-------	-------	---------------------	--	--	--	--	--	--------	--------	-------	--------	--------	-------	--------	-------

昭和三十五年
一二十五回忌

笠輝昭殿	浅田義幸殿	森田エミ殿	古賀マスヨ殿	久富靖男殿	池田ヨシノ殿	重松偲殿	荒木スミカ殿	坂井辰一子殿	海田浩明殿	森田照夫殿	中原鶴次殿	上野開三殿	執行文子殿	鶴田政子殿	笠守殿	小川恵子殿	熊本儀三郎殿	倉重京子殿	稲吉ユキエ殿	野田トヨ殿	坂井トシ子殿	山口菊太郎殿	津福ツギエ殿
------	-------	-------	--------	-------	--------	------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	--------	-------	--------	-------	--------	--------	--------

深町マサエ殿	生島晃輝殿	山本サナ枝殿	岡野和子殿	中尾幸夫殿	三根恒蔵殿	藤原芳子殿	倉富ミサヲ殿	吉田二三殿	増田元八殿	松石加寿代殿	西尾藤松殿	片桐正義殿	笠一成殿	松田ハナエ殿	久富和子殿	熊丸シマエ殿	平田イサヲ殿	笠一殿	中原浩殿	山下清之助殿	中園稔殿	笠千代香殿	田島アヤヲ殿	北川亮一殿	西尾ヨソエ殿	笠井トミ殿	岡野太郎殿	北村只次殿	山口ふみ子殿
--------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	------	--------	-------	--------	--------	-----	------	--------	------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	--------

昭和五十五年
三十三回忌

田中玉枝殿	井上トシノ殿	中川ハナ殿	佐藤ヒデ殿	内田キヌ殿	小川近殿	井口隆徳殿	武谷タカ殿	中原熊蔵殿	古賀ミドリ殿	酒見テルオ殿	木下秀見殿	本村正殿	昭和五十五年 三十三回忌						石丸シヲ殿	坂井イヅエ殿	竹島薫殿	野瀬一男殿	豊福シヅヨ殿	中島モカ殿	武田慎一殿	緒方茂殿	鬼塚トシ子殿	中島勝巳殿	黒岩規矩郎殿	岡野キミエ殿
-------	--------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	--------	-------	------	------------------------	--	--	--	--	--	-------	--------	------	-------	--------	-------	-------	------	--------	-------	--------	--------

笠イネ殿	中島亀雄殿	小島マサヨ殿	熊崎福次郎殿	笠原和子殿	中原トリ殿	柴田登殿	森山シヅエ殿	永松春枝殿	橋口巖殿	下川マサヨ殿	笠庄太郎殿	光安八百吉殿	熊本きぬえ殿	田中ヒサ殿	北川志保子殿	水田イスズ殿	星野長城殿	森寛幸殿	廣瀬学殿	古賀重孝殿	山口寒一殿	堤ハツノ殿	野田万亀子殿	藤戸コウ殿	山口サダ殿	笠久吉殿	青木勝次殿	城後栄子殿	宮本イトノ殿
------	-------	--------	--------	-------	-------	------	--------	-------	------	--------	-------	--------	--------	-------	--------	--------	-------	------	------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	------	-------	-------	--------

昭和 三十八 年
五十回忌

こうりん

第 70 号

- 原田 哲哉 殿
- 笠原 岩太 殿
- 島岡 めの 殿
- 鹿見 島優 殿
- 秋山 猪之助 殿
- 田中 欽二郎 殿
- 福井 谷五郎 殿
- 柳瀬 熊太 殿
- 熊丸 ワカノ 殿
- 岡崎 和元 殿
- 深野 萬蔵 殿
- 倉富 マツエ 殿
- 坂井 ツル 殿
- 木下 和子 殿
- 藤吉 美義 殿
- 江崎 チヨノ 殿
- 岡野 美枝 殿
- 北島 サメ 殿
- 柴田 岩男 殿
- 吉田 俊秀 殿
- 井手 モト 殿
- 田島 シズ子 殿
- 笠原 浅二 殿
- 猪山 治次郎 殿
- 吉田 勝 殿
- 下川 真佐子 殿

- 原田 マスヨ 殿
- 川野 嘉彦 殿
- 林田 マサエ 殿
- 笠原 仁三郎 殿
- 原田 善次郎 殿
- 中原 重利 殿
- 笠原 オカノ 殿
- 中原 ハル 殿
- 尾関 康司 殿
- 野村 美智枝 殿
- 加藤 明芳 殿
- 赤司 照子 殿
- 笠原 ムメノ 殿
- 町野 茂 殿
- 稲益 太郎 殿
- 中野 ナル 殿
- 荒木 ミツ 殿
- 松石 保蔵 殿
- 笠原 佐次郎 殿
- 龍頭 喜三郎 殿
- 佐藤 彌吉 殿
- 高田 ツマヨ 殿

右、お知らせ致
します。
なお、既に奉修
済みの方も記載
しております。

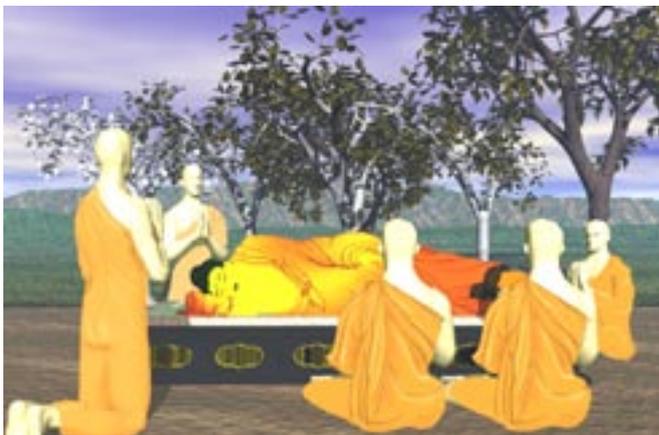
先祖回向は救われる
人生の大道です。
ご先祖が喜ばれてこ
そ、皆さんの喜びもあ
ります。

年忌は亡くなった
人のための追善回
向です。回向とは
言葉通り、「回し向
ける」こと。法要
の中で読んだお経
や念仏の功德を亡
き人のために差し
向けることです。
それによつて、亡
き人も残つた人も
ともに阿弥陀さま
の光明の中にお守
りいただくことに
なるとは、お導
一応、五十回忌で
年忌法要は終わり
ます。お位牌等も
先祖代々のお位牌
と一緒にしてもか
まいません。

釈尊の生涯

若者たちとの会話

ウルヴェイルヴァー
へと向かった釈尊の
一行は、その途中、
林のなかで休息して
いると、盗みをして
姿をくらました同行
の女をさがしている
五人の若者に出会っ
た。
その女の行方を尋
ねられた釈尊は、「女
をさがすこと、自
分自身をさがすこと
と、どちらが大事だ
と考えるか？」と逆
に問返された。
釈尊は「人は己よ
りも愛しいものを見
出すことはできな
い」「真実の自己の形
成に、真実の自己の
よりどころは自己の
みである。」



2月15日は涅槃会

他にいかなるより
どころがあるのか。
自己をよくととのえ
られたとき、人は得
がたいよりどころを
得るのである。」と教
えられた。

法然上人絵伝

第一巻第四段

勢至丸の父・時国、源内武者定明の夜討ちに遭う

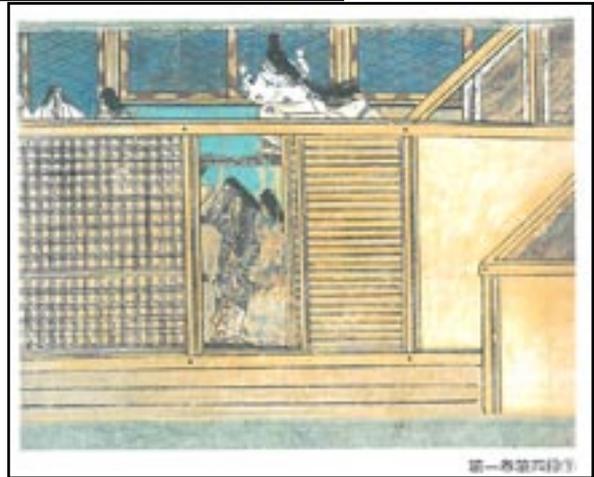


第一巻第四段①



第一巻第四段②

矢をつがえて敵を狙う勢至丸



第一巻第四段③

四十八巻伝によると、漆間時国は家柄のよさを鼻にかけ、稲岡庄の預所であった明石定明の命令に従わなかった。そこで定明は保延七年の春、時国の屋形に夜討ちをかけた。不意に襲われたので屋形は一瞬のうちに修羅場となった。

このとき勢至丸は九歳であった。急いで逃げ、物陰に隠れた。すき間から覗くと、父と交戦している定明の姿があった。そこで勢至丸は小さな弓に矢をつがえて放つと、矢は定明の眉間に命中した。

この矢傷が目印となり、時国の親族に仇討ちされることを恐れた定明は姿をくらました。勢至丸の武勇談は広ま

り、「小矢児こやちこ」として人々にもてはやされたという。

定明夜討ちの図は四十八巻伝のなかでも最も迫力があるところで、時国の屋形の様子がよくわかる。時国の居室には畳が敷かれ、ふちどりのある浜松、龍田川の障子絵で飾られ、奥の部屋は難波江や花菱文様の障子絵が入れられている。そこには女性達が右往左往して逃げ惑う姿が描かれている。侍女につきそわれて難をさげようとしているのは時国の夫人であろうか？

法然上人は稲岡庄で生まれたことになつている。しかし、保延七年のころは稲岡庄はまだできていない。だから稲岡庄の預所である明石定明という人も存在していない。さらに国家の役人である漆間時国と荘園の役人の衝突ということも考えにくい。

しかし時国は、押領使という警察所長のような役職にあつたため、悪党どもから良く思われていなかったことは事実であろう。悪党は自分が悪いことをして財産を没収されたのを逆恨みし、集団化して急襲することは十分考えられる。大将が死ぬば一家は離散するのが当時の状態である。漆間時国は悪党どもに急襲され、それがもとで命を落としたということは十分考えられる。



写真はイメージです。

14日会（念仏と写経の会）

- 1、日 時 毎月第3土曜日（8月はお休み）
午後3時より勤行とお念仏
（日常勤行式 浄土宗のお勤め）
引き続き 写経会
- 2、場 所 無量寺 2階 本堂にて
- 3、参加費 無 料
写経用紙（和紙）は準備しております。
（実費をお願いします。）
用具は各自お好みのもの
筆ペンを多少準備しております。
納経料 1巻 1,000円をご志納下さい。
（納経料は観音様建立の資金といたします。）
無量寺の聖観世音菩薩は
筑後33ヶ所観音霊場18番札所です。

観音様のお体を鑄造する銅板の御志納も受付けています。銅板一枚 金五千円

かぶくでおいしい！
かぶな流 精進料理



【作り方】

- 1, かぶは皮をむいて1cm厚の輪切りにする。
- 2, さつまいもは半分くらい皮をむいて、同じく1cm厚の輪切りにする。
鍋に1と豆乳を入れて、ひたひたになるくらいだし汁を加える。
- 3, 火にかけて煮立ったら味噌を溶かし、具材が柔らかくなって煮汁が半分になるまで煮つめる。
(7~10分程度) かぶの葉があったら5cmに切って2に加え、2分煮て火を止める。

～かぶとさつまいもの 豆乳味噌煮～

浄土宗～かるな～より

<材料>

- かぶ・・・・・・・・・・3個
さつまいも 小さめ・1本
だし汁・・・・・・・・・・適量
調整豆乳・・・・・・・・200cc
味噌・・・・・・・・・・30g